

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770301162		
法人名	株式会社 エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム(3階)		
所在地	大阪府寝屋川市本町16番5号		
自己評価作成日	平成26年2月26日	評価結果市町村受理日	平成26年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年4月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「すべての認知症高齢者に対し尊敬の意を持ち、受け入れる事」が介護支援の根本と考えており、介護スタッフにおいては「生き生きと元気に楽しい共同生活」及び「さりげなく優しく、さりげなく見守る」といった、認知症高齢者主体の介護を行うべく日々努力を重ねております。事業にあたっては、「笑顔で心穏やかに。時には思いを打ち明け一緒に涙できる環境づくり」を目指し、地域住民との関係性の向上、並びに地域内連携を綿密に図りながら行政との連携に努めております。また、26年度より始動いたします「鍵預かり事業」に賛同し、地域の一員として、地域の高齢者の方々の方に力になるべく努めております。散歩しながら地域の方に「こんにちは」と声をかけていただき、「また明日」と手を振り挨拶ができる。そんな地域に根差したグループホームが私たちのホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年に複合施設の3・4・5階で3ユニットのグループホームを開設した。地域にも周知されて居り、「介護何でも相談所」に相談もあり、自治会からの依頼にも対応している。今期始動の「鍵預かり事業」に参入、市、社会福祉協議会と共に地域に根ざした活動を行っている。職員が明るく元気で利用者に接し、楽しい雰囲気である。食にもこだわり、各フロアに調理専門の人員を配置し、利用者と職員が和やかにテーブルを囲んでいる。災害に対しても地域、自治会と防災連携体制も進めている、防災訓練、防災会議にも参加し、地域に施設として出来ることを取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である、グループホームを地域に開かれたものとし、利用者が孤立することなく地域社会の一員として生活出来る様に努力している	法人の理念「心得・理念」10項目が掲げられている。施設独自の理念は作成されていない。	理念は利用者、来訪者、に対し施設の姿勢を示し、職員の仕事に対して意欲を啓発するものである。分かりやすく簡素な言葉で見易い所に掲示されることを望む。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体にも施設が存在が浸透しており自治体の催しものに参加のお声がかかるようになった。挨拶などして日常的に交流が持てるように努力している	地域の自治会、老人会の行事等に参加し、交流を深めている。また散歩をする際には、近隣の方々と挨拶を交わすなど地域の一員として生活している。施設で行う催しは掲示板を利用し知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がいつでも相談できるように相談窓口を作りわかりやすくアドバイスできるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出た意見やアドバイスなど参考にさせて頂きサービスの向上に活かしている	規程の参加者で行われている、活発な意見や提案などを話し合い双方向的な会議が実施されている。運営に反映されている事が詳細な記録から確認される。	利用者の家族に、運営推進会議の丁寧な議事録を見て頂く機会が少ない、公開する方法として送付し、会議に関心を持って頂きサービスの向上に繋げることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的に連携をとって協力関係を築いている	日頃から、市が開催する各種会議に参加し、市の担当者との相談・情報交換等を行っている。地域とのつなぎ役である、地域包括センターとの連携を図り、市と共にサービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を発足し勉強会を開いたり定期的に会議を行い身体拘束をしないケアの実践に努めている	身体拘束が利用者にも与える弊害を職員はよく認識し、拘束をしないケアの実践に努めている。複合ビルの為エレベーターが他と繋がっているため施錠しているが、見守り等で閉塞感が無いように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を発足し勉強会を開いたり定期的に会議を行い虐待防止の徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	内部研修・外部研修で権利擁護の理解に努め必要性のある利用者については地域包括支援センターや社会福祉協議会とも連携をとりながら支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に不明な点が残らない様に話し合い十分な説明を行う事で理解納得して頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族との交流時の意見や要望など参考にし運営に反映させるようにしている	家族の来訪時には館長自ら暮らしぶりを伝えらると共に、意見や要望を聞くようにしている、来訪のない家族には手書きの手紙をだしている。家族とも風通しの良い状況にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を参考にし運営に反映させるようにしている	館長が昨年11月に着任して、研修委員会で毎月勉強会を行うなど職員のやる意欲があり、意見や提案を反映させている。社員旅行という希望があり職員が毎月積み立てを自主的に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設けるなど職員が向上心を持って働けるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を開催し職員の意識レベルの向上を図ったり外部研修などにも積極的に参加してもらい職員のケアの質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は設けていないが外部研修に参加した際には積極的に交流を図りサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で利用者様・家族様の悩みなど聞かせて頂き、安心して頂けるようなサービスの提供を行うことで良い関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の話しをよく聞かせて頂き少しでも不安を解消し安心して頂けるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設での対応が困難であるときには利用者様、家族様の理解を得たうえで他のサービスの利用を含めた対応が出来る様に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方には出来ることをして頂き、頼りにされているという喜びを感じて頂き共に過ごし支え合う関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援されている一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも行事などに参加して頂き共に利用者様を支え合うように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活での馴染みの人など来訪して頂き関係継続の支援に努めている	利用者が馴染みの美容院に行くことが難しく成って来てから美容院が来訪してくれ関係を保つ支援をしている。また職員の定着率も良く職員の皆が馴染みの人になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の性格や感情の変化を理解した上で利用者同士が関わり支え合える関係が持てるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様の了解を得て入院された方のお見舞いなどに行かせて頂き関係を保ち相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個人の思いや希望の理解に努め出来る限り希望の暮らしが出来る様に支援している	常に本人の視点にたつて本人が大切にしているものは何かを傾聴し、何気ない言葉から希望や意向を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、家族様、ケアマネージャーから情報収集を行うように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から心身状態、有する力等の能力の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らして頂けるように必要な関係者と話し合い意見を反映した介護計画の作成を行っている	定期的なカンファレンス・モニタリングを行い意見交換・情報を共有し、現状に即した介護計画を作成している。日常のかかわりの中での新しい要望などは介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い常に職員間で情報を共有しケアの実践の見直しや計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様の希望に応じ施設内の整骨院・ジムなどを利用して頂いたり、ニーズに合わせた柔軟な対応が取れるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事に参加させて頂いたり、近くの神社や公園に散歩の際には挨拶を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の希望を重視し適切な医療が受けられるように支援している	協力医が毎日往診に来てくれる体制になり、体調の変化や異常時には指示をいただき対応している。また歯科、眼科の他、必要な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の身体状況や情報・気づきを伝え指示を受け利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際看護師を通し情報交換を行い安心して治療が受けられるように病院関係者との関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にある程度の方向性を話し合い、必要な段階には家族様、主治医、看護師と十分な話し合いを行いチームでの支援に取り組んでいる	入居時に不安のないように説明を行い、重度化や終末期等には医師・看護師・家族・職員等を含め希望や状態の方向性についても話し合っている。看取りの経験もあり、記録も詳細に残されているが、終末期看取りの指針や同意文章などはまだ揃っていない。	重度化や終末期ケアの事業所としての方針を文章化し、初期の段階から家族の同意を得ることを早急に行いたい。医療連携加算を算定する上での必要事項を確認し、書類を揃えることを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており各自個人でシュミレーションを行ったり、緊急時の勉強会なども行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理委員を各階に一人配置し、職員全員と地域の方にも協力して頂き定期的に避難訓練を行っている	消防署から火災のみでなく水害、地震対策の訓練の打診も有り、防火管理委員会を作りマニュアルを作成中である。地域の自治会、民生委員、老人会等の協力で避難訓練を行っている。地域防災連携体制に付いても話し合っている。	非常災害時の対応を日常的な課題と認識し、地域の協力を得て、年間を通じ繰り返し訓練の実施を望む。また、家具などの転倒防止の手当て、備蓄への考慮も期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない声掛けを実践している	館長から利用者の人格尊重、プライバシーの確保について適切な指導が行われている。職員は誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、態度で接している。書類等の保管は適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思い希望を自己決定に結び付けるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個人中心のペースで生活出来る様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人に合った身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるように職員と一緒に食事をしている	食材は業者から配送され、各フロアに1名づつ調理専門の職員が配置されている。正月はお重、誕生会にはバラ寿司など1品追加、日曜日に一緒にオヤツを手作りしている。職員も一緒に和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立作りし、水分量もチェック表にて把握できるようにし食事形態も利用者個人に合わせて変更している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者個人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じトイレで排泄できるように声掛けし自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の自立を支援している。紙おむつの使用を最小限にするよう職員が排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい入居者様には飲むヨーグルトなどを飲んで頂いたり腹部マッサージを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や入浴したいタイミングで入浴して頂き楽しんで頂けるように支援している	利用者の清潔確保のために、基本の日程を定めているが、希望により何時でも入浴できるよう努めている。利用者が安心して入浴できる声かけや介助方法を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個人に合わせ休息したり安心して気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について理解するように努め、服薬の支援と症状の変化の確認に努める		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に張り合いや喜びのある日々を過ごして頂けるように役割や楽しみごと、気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望にそって出かけられるように家族様や地域の方にも協力して頂くように努める	季節の良い時には、近隣の住民への挨拶を兼ね事業所周辺の散歩を支援している。近くの学校への花見、地藏様へのお参り等は楽しみ一つになっている。今年の課題として玄關わきの植え込みを畑にし、利用者と共に野菜、果物の植え付けを行う予定としている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っています。本人様に必要なものがあれば家族様に相談しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りが出来る様に努める		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全に過ごして頂けるように努めている。不快や混乱をまねかないように配慮している	リビング兼食堂には寛げるソファ、テレビ、壁には季節感溢れる飾りつけや利用者の作品の展示があり、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。ベランダで花、野菜、果物作りを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置いたり今まで生活してきた環境に近づけ居心地良く過ごせるように支援している	居室には使い慣れた家具等を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫されている。本人の趣味、趣向でそれぞれの生活環境を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に安心・安全に過ごして頂けるように工夫した環境づくりに努めている		